

月刊

利根日石新聞

2009年11月1日創刊

第000128号
発行
利根日石株式会社 TEL0278-24-1635
本社販売管理課 FAX0278-23-7980



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、幼稚園、小、中、高校と休みとなつたスーパーからSPAゲッター、ラーメンが品薄に相変らずマスクを買い続けていた。私たちの生活がめまらした学校へ行く事も、外で遊ぶ事も出来ず家で1時間目算数2時間目国語終わると20分休憩は外で自転車で乗り回す3時間目鉛筆を持ちます。どの家庭でも大変な日々を送っている事と、思います。病院での検査、治療に当たる医療従事者の方々は、どうに限界を超えていると聞きます。コロナウイルス感染者が出

たとえ病院内に勤めている人たちの家族に保育園の卒園式を欠席するように言われたり学童では別室で隔離されて、タクシーに乗せられたいとか引越し業者からは一方的に作業をキャンセルされたと話を聞きました。病院の人たちにひとときもホッとしてもらいたいとの気持ちからピクニックのレストランのオーナーシェフみんまでレストランは営業出来ないが料理人から料理を食べてもらいたいとお弁当を作り医療従事者の方々に届けていた所をテレビで見ました。何百年の昔から感染症の薬を作ってきたので早くコロナに勝つ薬を早く出来る事を祈っております。それまで大変な毎日ですが平穏に暮らせる日が早く来ますようにと思います。

今年は何を送りましょう母の日元気がいいのかな
いちばんです

ある本を読んでパートV



『風邪の学』

日頃から体調管理に気を使っていても、時には季節の変わり目や疲れが重なると、風邪を引いてしまうことがあるものです。体調が悪ければ仕事にも支障が出てきます。『日でも早く良くなりなさい』と思うのは当然でしょう。しかし無理をして悪化する可能性もあります。

治療に始める一方で、病気の向き合い方がどうでしょうか。ただ嫌いなもの、苦しいものとして捉えるか、自分を見つめる直す機会と受け止めるかで、その後の生活に違いが出てきます。例えば、なぜ風邪を引いたのか、そのきっかけとなる要因を思い返してみよう。暴飲暴食や夜更かしで体調管理を怠ったなど、発見できるものです。病気の生活の赤信号といえます。体が不調を訴えている時は、心の生活の不自然さを見直す機会でもあるのです。

完全な体制に仕事に取り組みよう。生活環境を整え、心身の変化に気をつけて過ごしましょう。必 とにかく予防対策をしてコロナから逃げ切りましょう!!

予防対策実施中

We are taking the following actions against COVID-19.

- マスクの着用**
予防対策のためマスクを着用しています。
We may wear a mask to prevent and minimize the spread of COVID-19.
- 手洗い・消毒**
手洗い、アルコール消毒の徹底をしています。
We will make sure to wash hands and sanitize.
- 定期的な換気**
1時間ごとに換気をし、空気を入れ替えています。
We will ventilate the room every hour.

ご理解、ご協力のほどよろしくお願い致します。
Thank you for your understanding and cooperation.

当たり前の、掛け替えのない 日常を取り戻すために

新型コロナウイルスの猛威が止まりません。先月の原稿と比較すると、たった1ヶ月での数字の変化に改めて驚かされます。4月30日現在、世界の感染者数は317万人(先月の4倍)を超え、死者数は22万5,000名(6倍)を数えます。国内では14,119名(4.8倍)の方が感染し、435名が(5.6倍)お亡くなりになりました。県内では146名(7.7倍)の方が感染し、15名の方がお亡くなりになりました。(先月は1名)

7都府県を対象にした緊急事態宣言が4月7日に発令され、その後、16日にはその対象が全国に拡大されました。期間は5月6日までと決まっていますが、延長されることか濃厚です。経済へのダメージも大きく、新型コロナによる企業倒産は100件を超え増え続けています。

そしてその影響は、身近なところにも及んできました。利根中央病院の職員の方が新型コロナウイルスに感染したことか、4月18日に明らかになりました。人手も物資も不足する中で業務を遂行する医療従事者の方が感染してしまった事に、やり切れない思いを抱きますか、心無い批判や誹謗中傷があるに聞か、残念で情けない気持ちになります。医療従事者が感染してしまった以上、原因究明と対策が必要なのは当たり前の話で、誰より当事者である病院の皆さんが痛感し、改善を固めていると思います。医療の知識や現場の詳しい状況を理解しないまま無責任な発言をするべきではありませんし、ましてや、日々、体を張って勇気を振り絞って、現場に立ち続ける医療従事者の方々に批判するのは言語道断です。この緊急事態の中で批判や誹謗中傷、いたずらに犯人捜しをする暇があったら、地域医療を守る最前線で頑張る方々を支え、応援する方が結果として地域を守り、自らの身を助けることに繋がるといふことに気付いて欲しいと思います。

地域医療を守る最前線は中央病院だけではありません。院内感染によって中央病院が中止した救急受入や外来診療を周囲の他の病院が受け入れています。通常の患者さんに加えて、中核病院である中央病院のカバーをする負担はほかにかかりません。外来の中には新型コロナ疑いの患者さんも来るでしょうし、そこで働く方々の身体的、精神的負担はほかにかかりかとお察しします。また、高齢者福祉施設等介護に従事される方々も、入居される高齢者の感染した場合の重篤化リスクを考えると、大変なプレッシャーの中で現場に立たれていることと思います。

保健所を始め、役所の方々も厳しい環境下での業務だと思います。スーパーやドラッグストアを始め、私たち燃料関係も含め、日常生活に必要な商品を扱う小売業も、不安の中、出来る限りのウイルス対策を実施しながら業務にあたっています。テレワークや在宅勤務を余儀なくされる方や、学校に行けない児童・生徒の皆さん、また普段は家に居ない家族の為に毎日3食作らなければならぬお母さん(お父さん)、多くの人が日常とは異なる不自由と不安の中で、プレッシャーを抱えています。だからこそ、批判や犯人捜しではなく、当たり前の日常を取り戻すために、我慢出来ることを我慢し、協力できる事を少しずつでも実践できればいいと思います。

先日、宇宙飛行士の野口聡一さんが170日を超える宇宙での滞在経験と踏まえて、外出自粛の秘訣をテレビで話していました。行動の自由が制限され、人とも会えないという意味では、宇宙空間はより厳しい外出規制のような状態、その中で体も心も健やかに保つうえで大切なことは「ルーティンを作る」ことだそうです。ストレスを溜めず、不安と向き合いながら、出来る事を少しずつ実践し、結果として地域が守られ、掛け替えのない日常が早く戻って来ることを切に祈ります。